



私の GALLERY

絵革・裂き織り・刺し子・染め



SUMIKO IWAYA

絵革作家

岩谷 純子さん

にかほ市象湯町小砂川字小田14-51
TEL.0184-46-2018

めて。今は忙しくも自分なりにこれらを楽しんでいます」
絵革に描く図柄は、7年前に訪れたアフリカでの影響を受けている、街にあふれる素朴な文様に魅了された。その独特の絵や色彩に、日本伝統の染めや織り、刺し子を組み合わせる。各工芸の垣根を越えた独創的な作風が、不思議な芸術をつくり出す。
素材の「味」も大切に。「革も糸も布も年々深みや色を増す。時を経た味わいが好きなんです」。使い古した革や布、はたまた空き箱まで、岩谷さんの手にかかれば立派な作品に変身する。
「次は何を作ろうか、考える時間が楽しくて」。自然に包まれた暮らしの中で、次々と素材に命を吹き込んでいる。



古めかしくもあり、新しい。
不思議な味がにじみ出る。
それは自由な遊びから
紡ぎ出された新しい命。
使い古した革や布、糸が、
バッグ、敷物、タペストリー、
鼻緒となつてよみがえる。

革、布、糸と遊ぶ。

自宅兼工房の目の前は海。鳥海山も雄姿を見せる。穏やかに波打つ海を見つめて「本当はここに住んだらこのんびり過ごすはずでしたが…」と微笑む。
岩谷さんが秋田と山形の県境に位置する象潟町小砂川に移り住んだのは平成19年。50年余り住んだ埼玉を離れ、ふるさと山形県遊佐町に近いこの地で静かに暮らすはずだったが…。
趣味として30年以上前に始めた「絵革」は、革に図案を写し、アルコール染料で彩色する技法。岩谷さんは絵革のバッグや敷物、イスの座面などを作り続けてきた。それが小砂川に来てから新たな広がりを見せた。草木染めサークル、遊佐の刺し子スクール、裂き織りの工房など、訪ねた先でさまざまな出会いが待っていた。「それは私にとってこの上なく幸せな伝統文化との遭遇でした。以来、染め、織り、刺し子も始